



国立大学法人化の3年目にあたって

—科学技術振興調整費の事業に「生涯にわたる女性研究者共助システムの構築」が採択—



国立大学の法人化の3年目に入りました。法人化後の2年間で組織や人事などの制度整備は一段落しましたが、法人化に伴う規制緩和と競争の激化はいよいよこれから本番となります。マラソンでいえば、競技場を出てロードに入り、これから地力が試されることとなります。最も大切なのは、我々の意識改革であり、法人化の成否あるいは今後の大学の発展はここにかかっていると思います。大学としての基本スタンスを堅持しながら、状況の変化に柔軟に対応することが求められています。

さて、この度、平成18年度科学技術振興調整費の「女性研究者支援モデル育成」事業に、本学から応募しておりました

「生涯にわたる女性研究者共助システムの構築」が採択されました。この事業は、地域住民、教職員、学生及び卒業生等からなる重層的分散型の人的ネットワークである「共助型支援ネットワーク」を構築し、二次保育や休日保育等の実施など女性研究者の実状に則したきめ細やかな育児支援体制を構築するものです。女性研究者のみならず大学院生にもメリットのある制度設計を行い、広い観点から女性研究者全体の育成支援を行うものです。国立の女子大学として、本事業の実施を契機に従来にも増して、研究者育成を強力に進めたいと考えております。関係者のご協力を心よりお願い申し上げます。

平成18年6月

学長 久米 健次

「魅力ある大学院教育」イニシアティブに本学が選定

「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、文部科学省が、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能を強化するために実施する事業です。大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育の取り組みに対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育課程の組織的展開の強化）を推進することを目的としています。奈良女子大学大学院の教育プログラム「生活環境の課題発見・解決型女性研究者養成」が選定され、平成17年度より実施されています。

(<http://www.nara-wu.ac.jp/initiative-life/>)



コラボレーションセンターが完成

昨年度から建設してきたコラボレーションセンター（研究棟）が完成し、2月20日（月）には竣工記念式典が開催されました。最新の太陽光発電システムなども採り入れた鉄筋コンクリート造、3階建て、2,600㎡（各階約850㎡）の建物で、3階には放送大学奈良学習センターも入居し、産学官連携及び地域連携の拠点として、主に対外的な社会連携活動の推進拠点として活用されます。

平成18年度役職員紹介

●役員会

学長	久米 健次
理事（企画・研究担当）	清水 哲郎
理事（教育・学生支援担当）	井上 裕正
理事（管理運営担当）	岡本 親宣
理事（非常勤）	望月 和子

(大阪大学名誉教授)

●監事(2名)

業務監査担当（非常勤）	岡 秀松 氏（大阪ガス株式会社参与）
会計監査担当（非常勤）	上野 祐子 氏 (株式会社マーケティングダイナミクス研究所代表取締役)

●経営協議会委員（10名）

学長	久米 健次
理事（企画・研究担当）	清水 哲郎
理事（教育・学生支援担当）	井上 裕正
理事（管理運営担当）	岡本 親宣
理事（非常勤）	望月 和子
(学外有識者（五十音順）)	
大野 仁世 氏	(奈良県総務部次長、奈良県自治能力開発センター所長)
志水 義文 氏	(大阪簡易裁判所司法委員、摂南大学法学部客員教授)
田代 和 氏	(近畿日本鉄道株式会社相談役)
中西 進 氏	(京都市立芸術大学学長、奈良県立万葉文化館長)
鷲塚 泰光 氏	(元独立行政法人国立博物館理事、元奈良国立博物館長)

●教育研究評議会評議員（18名）

学長	久米 健次
理事（企画・研究担当）	清水 哲郎
理事（教育・学生支援担当）	井上 裕正
理事（管理運営担当）	岡本 親宣
文学部長	奥村 悦三
理学部長	池原 健二
生活環境学部長	上野 邦一
人間文化研究科長	矢野 重信
附属図書館長	坂本 信幸
附属学校部長	水上 戴子
教授（文学部選出）	出田 和久
教授（文学部選出）	森岡 正芳
教授（理学部選出）	塚原 敬一
教授（理学部選出）	野口 誓子
教授（生活環境学部選出）	磯田 則生
教授（生活環境学部選出）	小城 勝相
教授（人間文化研究科選出）	今井 範子
教授（人間文化研究科選出）	岩瀨 修一

21世紀COEプログラム

—21世紀COEプログラム報告集を刊行—

奈良女子大学21世紀COEプログラム「古代日本形成の特質解明の研究教育拠点」では、シンポジウムや研究会といった催事、年4回発行するニュースレター、またインターネットにおけるWebサイトの公開などを通じて、研究活動内容の公開と普及に努めておりますが、このたび、平成16年度にCOE拠点として採択されてから一年強の間に蓄積した研究成果を「奈良女子大学21世紀COEプログラム報告集」として一挙4冊刊行いたしました。内容詳細、および入手方法につきましてはCOEのホームページをご覧ください。
(<http://koto.nara-wu.ac.jp/coe/>)



現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)

—平成17年度の活動状況—

平成17年度に文部科学省から本学が選定された「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」では、「地域の変革を促す女性人材育成プログラム—歴史的市街地に立地する大学を地域社会変革の拠点とする—」というテーマのもと、種々の活動を行っています。2月26日(日)にはF棟5階大学院人間文化研究科会議室でシンポジウム「まちづくり・女性・大学」を開催し、記念講演やパネルディスカッションを実施しました。本事業は平成19年度まで継続して実施されます。

(<http://www.nara-wu.ac.jp/gp/>)



地域貢献事業実施報告書の刊行

平成15・16年度の2年にわたる文部科学省の「地域貢献特別支援事業」の後を受け、平成17年度からは「奈良女子大学地域貢献事業」として、8事業を展開しました。このたびこれら事業の概要と成果を取りまとめた「奈良女子大学地域貢献事業実施報告書 平成17年度」を刊行しました。

平成18年度は、テーマをさらに充実させて、7事業を展開しています。

(社会連携HP <http://www.nara-wu.ac.jp/collabo.html>)



—地域貢献事業の一環で、「佐保道万葉歌碑」を建立—



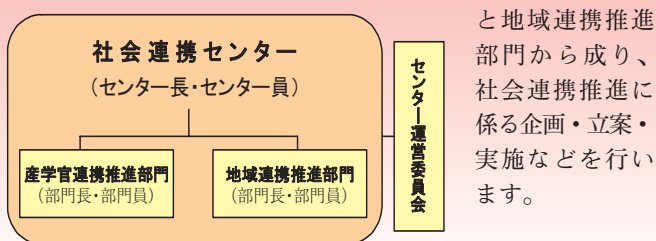
除幕式の様子(久米学長と坂本教授)

本学は、歴史的文化的遺産の宝庫である奈良県で唯一の人文社会系を擁する国立大学として、奈良の歴史や文化あるいは遺産に関し、地域に密着した教育研究を行い、実績を積み重ねてきました。平成15年からはその成果を地域に還元すべく、「地域貢献事業」を行い、その一つとして、「万葉故地のデータ化と歴史的景観保全事業」があります。これは、奈良県内外の万葉故地の研究を推進するとともに、講演やシンポジウムを開催し万葉古代学の普及を図り、奈良の歴史的風土景観の保全意識の向上や、地域の観光資源開発に貢献する事業です。

平成17年度は奈良市の協賛を得て大伴坂上郎女の佐保道をうたった柳の歌「我が背子が 見らむ佐保道の 青柳を手折りてだにも 見むよしもがも(巻八・一四三二)」を、大学院人間文化研究科坂本信幸教授が揮毫した万葉歌碑にして、大伴家の所在地と推定された現春日野荘(奈良市法蓮町)前庭に建立しました。

社会連携センター設置

平成17年11月、本学と社会との連携について、総合的な施策を立案するとともにその実施について中心的な役割を果たし、本学における社会との密接な連携・協力の推進に寄与することを目的として設置されました。産学官連携推進部門



と地域連携推進部門から成り、社会連携推進に係る企画・立案・実施などを行います。

「奈良女子大学研究紹介集・2005-2006」発刊

社会連携センターでは、「研究紹介集2005-2006」を刊行しました。平成14年に産学官連携推進室で発刊された初版以来4代目となる今回は、手軽に携帯できるようA5サイズに小型化し、表紙は黒字に金文字様という重厚な装いとなっています。本学教員の研究活動の概要が分かりやすく記載されています。ご希望の方には、郵送料のみで送付させていただきますので、産学官連携推進部門までお申し出ください。

(Tel 0742-20-3734)



アジア・ジェンダー文化研究センター設置

平成17年11月、アジア地域の中の日本、その日本の中の女子大学として、特にアジア地域における女子高等教育の発展に貢献し、アジアにおけるジェンダーに関する研究を促進し、アジアにおける女性研究者のネットワークの基地となるセンターを目指して設置されました。アジアにおける女性の生活やジェンダーに関する研究において、講演会、シンポジウムなどを行い、アジアにおける女性研究者のネットワーク形成などに資する活動をしています。



公開講座のご案内 - 14講座を開設 -

平成18年度は下記のとおり14件の公開講座を開設しています。すべて無料です。詳しくはホームページをご覧ください。
(<http://koto.nara-wu.ac.jp/lle/info4.html>)

講 座 名	開 催 日 時	受 講 対 象
初心者のための情報セキュリティ講習会	7/15(土) 13時30分～16時30分	一般50人
〈奈良〉を伝える ー文化資源と地域振興ー	7/22(土)・29(土) 14時～16時	一般50人
DNAの解析を体験しよう(分子生物学実習)	7/25(火)・26(水) 10時～15時	教員10人
数学の楽しみ・夏	8/ 9(水) 10時～16時15分	一般、教員、高校生100人
パソコン活用8月講座 ～プレゼンテーション～	8/12(土) 10時～16時	一般、教員40人
パソコン活用9月講座 ～表計算マクロ(VBA)の活用に向けて～	9/ 9(土) 10時～16時	一般、教員40人
たばこについて考える	9/ 9(土) 13時30分～15時	一般40人
量子コンピュータの世界ー数学・物理学・情報科学のハーモニーー	9/16(土) 13時～17時30分	一般、教員40人
宇宙と地球	10/ 1(日) 13時～16時15分	一般50人
古代の美術と人々の暮らし	10/ 7(土) 13時30分～15時	一般200人
新・衣の生活学ー最新の繊維素材・アパレル関連情報ー	10/21(土)・28(土) 13時～16時	一般50人
奈良の文化財と文学	10/21(土)・28(土) 14時～16時	一般、教員70人
禅室(僧坊)の意味	11/18(土) 13時30分～15時	一般200人
額田王と大海人皇子・鏡王女、大伴家持と藤原久須麻呂	12/ 9(土) 13時30分～15時	一般100人

平成18年春の記念館一般公開

本学では、記念館が平成6年(1994年)に守衛室(附正門)とともに国の重要文化財に指定されたことを受け、重要文化財に対する理解と認識を得るとともに、開かれた大学として地域との連携を深めることなどを目的に、平成9年(1997年)から、毎年春と秋の2回記念館一般公開(入館無料)を開催しています。今年度はゴールデンウィーク中の4月29日(土)から5月7日(日)までの9日間にわたり開催し、期間中1,751名の来館者がありました。



来館者で賑う館内

今回は特別展示として、「奈良きたまちと奈良女子大学」として、大学周辺の近鉄奈良駅北側に広がる地域の魅力を紹介し、新しい観光地として提案計画する取り組みなどを、「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」の活動の一環として紹介しました。また、今回は一般公開では初めて「女



ミニコンサートの様子

高師時代のピアノ(百年ピアノ)」を展示しました。来館者に自由に弾いて頂き、ミニコンサートなども開催したため、訪れた人々は記念館の落ち着いた雰囲気の中で奏でられる素敵な音色に耳を傾けておられました。

キャリアデザイン・ゼミナールが好評

平成16年度からスタートした4年一貫のキャリア教育は、進路や将来設計をじっくり考えるきっかけとなると学生に好評です。「教養教育」、「専門教育」と並ぶ教育の重要な柱として「キャリア教育」を位置づけていることが、他の大学にはない本学の大きな特色です。



今年度はさらにカリキュラムを整え、全回生が受講可能な「キャリアプラン科目群」の中で、スキルの習得(文章表現力・英語力・プレゼンテーション・ITなど)や実地体験を通じ、実践力をつけることを目的とする「キャリアデザイン・ゼミナール」を、19科目開講しています。

ユニークな科目が数多く企画されており、例えば「朝食たべてダイエット」(大学院人間文化研究科三木教授(運動生理学))は、月曜日の8時5分から45分間、奈良女子大学生協の協力を得て、生協食堂で開催されます。実際に生協食堂で250円の朝食を食べながら、そのメニューを切り口にして、栄養学などを学びます。学生が健康増進を目指しながら、将来社会で活躍できる女性として「健康」について考えなおし、自らのキャリアデザインを主体的に考えるきっかけとなることが期待されています。(キャリア教育HP <http://www.nara-wu.ac.jp/career.html>)

第13回「在学生と卒業生とのつどい」を開催 - 社団法人佐保会主催 -

5月12日(金)午後4時30分から7時まで、E棟109教室において、本学同窓会の佐保会主催による「在学生と卒業生とのつどい フォーラム『大学で得たもの・得たいものⅡ』」が開催されました。

パネリストとして、島田資子氏(1983年文学部教育学科体育学専攻卒)、小山なつ氏(1980年大学院修士課程生物学専攻修了)、李 玲娟氏(2005年大学院博士前期課程生活環境学専攻修了)の3名を迎え、コーディネーターとして前川昌子氏(1975年大学院家政学研究科被服学専攻修了)の司会のもとフォーラムは進められました。パネリストから「大学時代は自分の時間を自由に使うことができた時」、「大学での経験は人生の糧」など貴重な体験談が話され、クラブ活動や学生時代の思い出も語られました。学生から「仕事と家庭の両立の秘訣について」などの質問もあり、短い時間でしたが、様々な分野で活躍されている卒業生と在学生の有意義な交流の場となりました。



アフガニスタン女子教育支援

－平成18年冬の女性教員研修報告－



記念館講堂で久米学長を囲んで

「アフガニスタン女子教育支援のための五女子大学コンソーシアム」(お茶の水女子大学、津田塾大学、東京女子大学、奈良女子大学、日本女子大学)では、「アフガニスタン女性教員養成フェーズ2」として1月上旬から2月上旬まで、アフガニスタンの中学・高校の女性の校長10名を招き、教育を受ける機会の男女格差をなくすため、女性教育関係者の能力向上を目指して、女子教育に関係する制度や学校運営体制を改善するための研修を実施しました。

本学では、1月29日(日)から2月2日(木)までの5日間の研修を担当しました。

研修前半3日間は、世界遺産に指定されている東大寺等を訪れ、伝統文化の継承と平和についての考察を行ったのをはじめ、奈良県立教育研究所や山村の小学校である奈良市立大柳生小学校では、首都圏と地方の差のない教育、地域と連携した学校教育の現状等について学習しました。

研修後半2日間は、本学附属学校における総合学習についての取り組みをはじめ、研修員自らが職員会議に参加して意見交換する等実践的な学習を行いました。



模擬職員会議に参加する研修員

「アフガニスタン女子教育支援のための五女子大学コンソーシアム」(お茶の水女子大学、津田塾大学、東京女子大学、奈良女子大学、日本女子大学)では、「アフガニスタン女性教員養成フェーズ2」として1月上旬から2月上旬まで、アフガニスタンの中学・高校の女性の校長10名を招き、教育を受ける機会の男女格差をなくすため、女性教育関係者の能力向上を目指して、女子教育に関係する制度や学校運営体制を改善するための研修を実施しました。



奈良公園の鹿と研修員

研修員は、アフガニスタンの女子教育の発展に寄与しようと、真剣に研修を受講していました。

海外からの表敬訪問

基本理念に「開かれた大学－国際交流の推進と地域・社会への貢献－」を掲げている本学には、海外から数多くの表敬訪問があります。最近の主なものでは、中国蘇州大学学長一行(H17.11.4)、サウジアラビア女性教育者一行(H17.12.9)、アフガニスタン若手記者(H18.3.7)、カブル大学薬学部長(H18.3.8)、南京大学国際合作与交流処処長(H18.3.23)、新疆ウイグル自治区政府代表团(H18.3.25)の来訪がありました。交流活動の推進や友好親善のための取り組み等について意見交換が行われています。



蘇州大学訪問団との会話の様子

海外留学説明会の開催



留学中の体験を語る学生

国際課、国際交流センターでは、本学日本人学生を対象として5月24日(水)に海外留学説明会を開催しました。国際交流協定締結大学への短期留学制度を中心としたもので、30名を超える参加者がありました。同制度は、本学での在籍身分を有したまま相手大学へ授業料などを払わず1年以内の期間留学ができ、本学が認定すれば履修単位の互換も可能なものです。

同制度を利用して、ミルズカレッジ(米国)、ノースカロライナ大学グリーンズボロ校(米国)及びソウル大学(韓国)への短期留学を終えて帰国したばかりの学生から、留学中の厳しい勉強、楽しいキャスライフなど、盛りだくさんな情報提供もありました。また、梨花女子大学(韓国)、西安交通大学(中国)からの留学生による母校の紹介もありました。留学を体験した学生が質問に応じる時間も設けましたが、大変有意義な楽しい説明会だったと参加学生から好評でした。



参加学生から相談を受ける学生

学長主催修了等留学生懇談会

平成18年3月末に学生生活を終えて帰国する留学生を対象として、2月10日(金)に学長主催の送別懇談会を開催しました。当日は、久米学長、清水副学長、井上副学長をはじめ、留学生が在学中にお世話になったチューターにも同席願い、大学での研究活動や異文化体験についての思い出話など予定時間が過ぎるのを忘れて懇談しました。

留学生の皆さんが本学での学習等の成果を活かし、帰国後それぞれの分野で活躍されることが期待されます。



久米学長を囲んで懇談する留学生

国際交流・留学生交流に係る

情報発信について



本学の国際交流・留学生交流に係る情報は、国際交流センターホームページからも発信しています。是非ご覧いただくとともに、内容等充実のため、ご意見等をお寄せ下さるようお願いいたします。

(<http://www.nara-wu.ac.jp/iec/index/index.htm>)

編集・発行 奈良女子大学広報企画室

編集責任者 清水哲郎(副学長)

連絡先 奈良女子大学総務・企画課

Tel 0742(20)3220 Fax 0742(20)3205

E-mail admin@jim.nara-wu.ac.jp

大学ロゴマークの商標登録

本学では、大学の認知度を向上させるUI(University Identity)プランの一環として、様々な取組みを行っていますが、このたび、大学ロゴマークを商標登録し、大学からの各種印刷物に積極的に利用しています。

